

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	88.3%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	82.0%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	84.0%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたりすることができている	82.9%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。しかし、他の項目においては、全国平均より低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの 時間勉強していますか。「3時間以上」	10.2%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	10.9%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	17.2%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	35.9%	27.4%
「30分より少ない」	19.5%	12.9%
「全くしない」	6.3%	5.7%

家庭学習については全国平均を下回っています。学習とは、教科内容だけでなく、自分の興味のあることを追究していくことも含まれます。まずは、お子さんが「やってみたい」と思うことを明確にすることが大切です。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

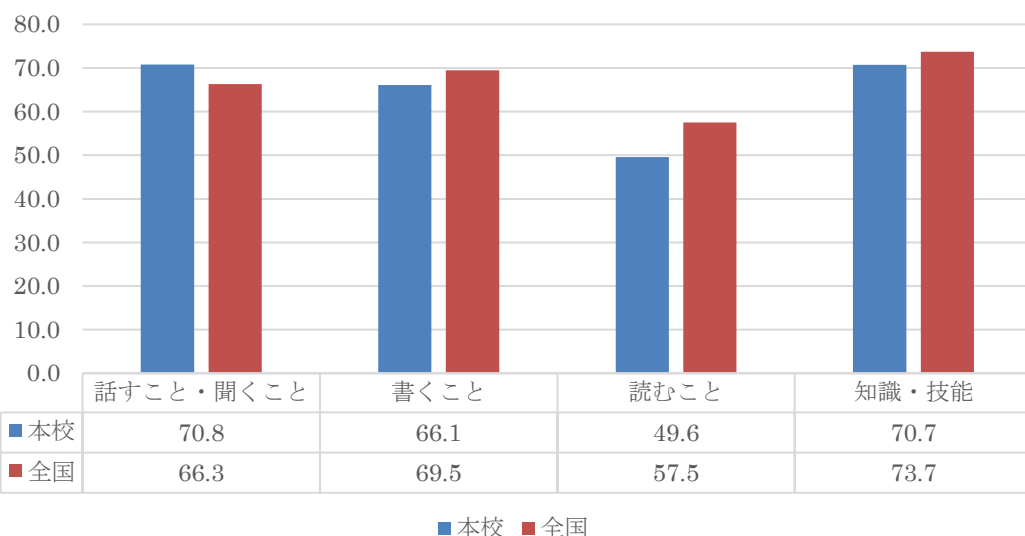
- 児童が学校に行くのが楽しいと感じ、日々の授業に熱中できるよう、授業改善に取り組んでいきます。
- 「ぽかぽかカード」の活用や人権・同和教育の取組を通して、自己肯定感や規範意識を高めていきます。
- 友達との関わりの中で自分の考えを伝えたり、新たな考えに気付いたりできるよう、授業において話し合い活動を取り入れていきます。
- どのような学習活動においても、結果だけではなく、そこに至るまでの過程についても認めたり、励ましたりしていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習が定着することは、日々の生活が大きく関わります。今後も、引き続き、ご家庭においてお子さんへの声かけや励ましをお願いいたします。

2 国 語

全国平均正答率との比較（小学校国語）



(1) 結 果

「話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率を上回っています。しかし、「書くこと」「読むこと」「知識・技能」においては、全国平均よりも低くなっています。問題形式別の正答率では、「選択式」、「短答式」、「記述式」のすべての正答率が全国平均より低くなっていました。特に「記述式」では、問題によっては全国平均を16.1%下回っているものもありました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均を上回るという成果が見られました。しかし、その他の「書くこと」、「読むこと」と「知識・技能」の領域において、平均正答率を上げることが課題です。また、すべての問題において、無解答率が全国平均を上回り、「記述式」の問題においては、14.1%上回るものもありました。また、「選択式」の問題においても無解答率が高いことは課題です。よって、「記述式」の問題に限らず、どのような問題にも抵抗なく取り組める力をさらに伸ばしていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

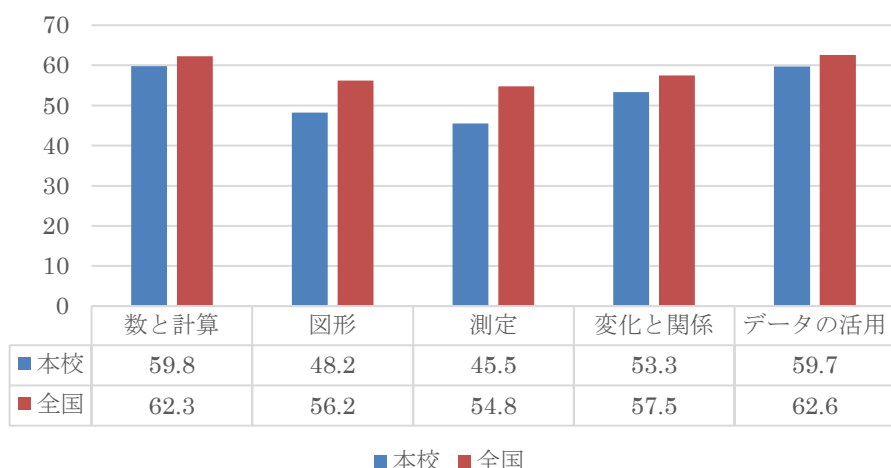
- 児童に書き方を教えたり、書き慣れさせたりする取組を日々の授業に取り入れます。
- インタビューや発表などの学習では、ゲストを招くなどして、相手意識をもって話す場面を設定します。
- 「読書デー」などを通して読書に親しみ、新しい文章や言葉に触れる機会を増やします。

【ご家庭では】

- お子さんが書いた作文などを見てください。書かれた内容について詳しくたずねたり、感想を伝えたりして、楽しく会話するきっかけの一つにしていきたいです。
- 「読書デー」をはじめ、日ごろから読書する時間を大切にしましょう。語彙力を高め、知識の幅を広げるためにも読書は効果的です。図書館に行く、読書について話題にするなど、読書環境を整えていただければと思います。

3 算数(数学)

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結 果

「数と式」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の4つの領域において、全国平均正答率を下回っています。また、「選択式」、「短答式」、「記述式」、すべての問題形式別の平均正答率も、全国平均よりも低くなっています。無解答率については、すべての問題で全国平均より高くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と計算」領域における数直線上に示された数を分数で書く問題や異分母の分数のたし算($\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$)の問題では、全国平均を上回る成果が見られました。一方、台形を選ぶ問題やはかりの目盛りを読む問題において大きな課題が見られました。よって、計算問題を解くだけでなく、「図形」や「測定」などの問題にも取り組める力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

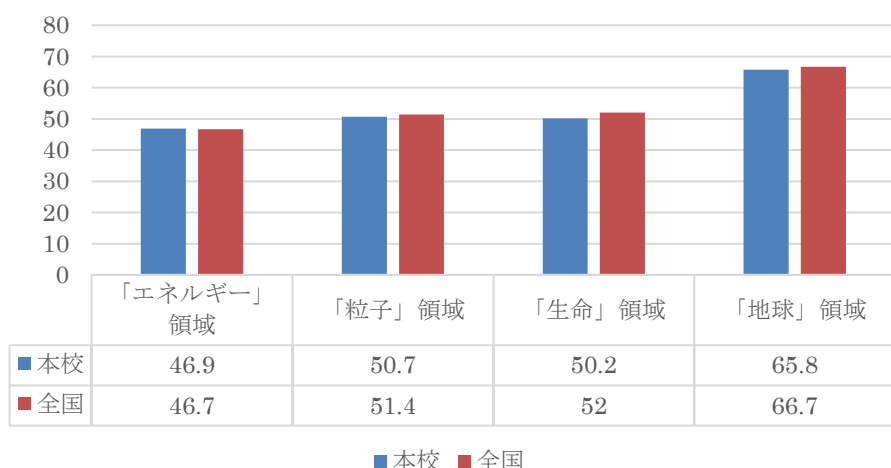
- 体験的な活動を取り入れたり、生活場面と結び付けて考えさせたりして、図形の性質についての理解を深めさせ、量感を養えるようにします。
- ノートチェック、プリント、ドリル等、日々の指導の中で個々のつまづきを見つけて補充指導をしたり、復習を取り入れたりします。
- 算数の基礎基本の定着を図るため、具体的な取組を各学年の実態に応じて実施します。(計算カード、フラッシュカード、百ます計算、計算タイムなど)

【ご家庭では】

- 算数の学習では、「学習したことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「家から〇〇までが約1 km」や「mL」や「L」を身の回りの飲み物などで体感させるなど、生活場面において学習したことに触れさせてください。

4 理科

全国平均正答率との比較（小学校理科）



(1) 結 果

「エネルギー」領域は、ほぼ全国平均と同等の結果でした。それ以外の領域においては、全国平均をやや下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」領域以外の問題での正答率が全国平均正答率をやや下回ったことが課題です。特に「生命」領域では、全国平均を8%近く下回る問題もありました。しかし、自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を上回り、無解答率はほぼ同等でした。よって、「記述式」の問題では全国平均を上回る成果が見られました。今後も授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→観察・実験→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- グループで話し合う活動を取り入れ、様々な見方や考え方に触れさせていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科の学習においても、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、学習したことと日常生活での現象を結びつけるとより理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等を配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。